

# 勉誠社

## 中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: 695f843c7f  
(期限: ~2024年7月31日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。  
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。  
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。  
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

### ●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。  
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 695f843c7f (期限: ~2024年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！  
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。  
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

**\*ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、  
中古文学会の会員であることをお知らせください。**

### ●ご連絡先

Mail [info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2023～2024年刊行 **20%引き**

	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格	注文数
<b>■事典・総記■</b>							
	世界神話伝説大事典(オンデマンド版)	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	<b>22,000</b>	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	<b>28,200</b>	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕(オンデマンド版)	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	<b>22,000</b>	
新刊	書物学 第25巻 古典籍の文献学—鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2,200	<b>1,800</b>	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723	2,200	<b>1,800</b>	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装幀修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	<b>1,600</b>	
	書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	<b>1,600</b>	
<b>■文学・文学史■</b>							
近刊	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16,500	<b>13,200</b>	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8,800	<b>7,000</b>	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2,200	<b>1,800</b>	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3,850	<b>3,100</b>	
	川端康成の曖昧な声—日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	<b>5,300</b>	
	本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	<b>2,500</b>	
	本 かたちと文化(電子版)—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3,080	<b>2,500</b>	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8,800	<b>7,000</b>	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	<b>3,100</b>	
	今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	<b>4,200</b>	
	正訳 源氏物語 本文対照 第二冊(オンデマンド版)—末摘花/紅葉賀/花宴/葵/賢木/花散里	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	<b>2,200</b>	
	正訳 源氏物語 本文対照 第三冊(オンデマンド版)—須磨/明石/澁標/蓬生/関屋/絵合/松風	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	<b>2,200</b>	
	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪(オンデマンド版)—民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	<b>7,900</b>	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	<b>4,800</b>	
	比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	<b>2,500</b>	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	<b>8,600</b>	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	<b>13,200</b>	
	中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	<b>3,300</b>	
	深掘り!紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	<b>2,100</b>	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	<b>13,200</b>	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	<b>2,600</b>	
	俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	<b>13,200</b>	
	学習院本「藤袴」(榊原本僚帖)の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	<b>13,200</b>	
	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	29	39022-0	11,000	<b>8,800</b>	
	伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	<b>7,000</b>	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	<b>5,700</b>	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	<b>10,600</b>	
	谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	<b>4,200</b>	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	<b>9,700</b>	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	<b>2,800</b>	
	文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック(オンデマンド版)	小谷一明・巴山岳人・結城正美・豊里真弓・喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	<b>2,500</b>	
<b>■歴史・文化財・美術史・思想史■</b>							
近刊	永平廣録 大全—『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに 解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017-4	71,500	<b>57,200</b>	
近刊	増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2,640	<b>2,100</b>	
近刊	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表/ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/04	39039-8	3,080	<b>2,500</b>	
	古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修/関口博巨 編	2024/03	32035-7	4,180	<b>3,300</b>	
	三井大坂両替店の顧客信用情報—享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	42	32042-5	16,500	<b>13,200</b>	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす—東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15,400	<b>12,300</b>	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7,700	<b>6,200</b>	
	器と信仰—東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16,500	<b>13,200</b>	
	彰義隊士の手紙—続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22,000	<b>17,600</b>	

	日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ！	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識—十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9,900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開—東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
	物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジ	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
	増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
	古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田敏 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
	続々 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』巻十六～二十五（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,400	
	別冊 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・附録 雨夜燈（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,400	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	日本人の読書—古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
	機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
	天地の間に己—人生きてありと思ふべし—熊沢蕃山「コスモポリテス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	4,000	
	古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
	大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
	野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
	近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版） —継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
	地方史誌から世界史へ—比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
	霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
	江戸時代の貸本屋 —庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
	輞川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
	深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
	黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
	二世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000	
	グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600	
	文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
	古代日本の儀礼と音楽・芸能—一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
	明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
	日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	
	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
	中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
<b>■ 日本語学・言語学 ■</b>							
近刊	日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/04	38005-4	3,520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16,500	13,200	
	楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
	方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000	
<b>■ 〈アジア遊学〉 ■</b>							
	293 彷徨する宗教性と国民諸文化 —近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100	
	291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史 —前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波瀾剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	

# 器と信仰

## 東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ

釈迦の遺骨として、アジア各地で篤い信仰を集める「舍利」。その容れ物である舍利容器は、特定の用途を持つ器形や、別の文脈で意味を成した図像が複合的に組み合わされ、舍利を莊嚴する器として仕立て上げられた。

それゆえ、「器のかたち」——どこで、どのような器の形状・素材・図様が採用されてきたのかという問題は、「舍利の意味」——舍利が各地域の社会においてどのような存在として受容されたのかということと相関関係を有している。

十数年にわたり行われた中国・日本・韓国・ベトナムの現地調査を礎とした、舍利及びその莊嚴に関する最新の知見を三部十四本の論考により提示。また、資料編では、現地調査にて得られた作例の基礎データ、また、舍利莊嚴における大きな画期である仁寿舍利塔の網羅的調査記録を提示、貴重な画像資料も収載した。

美術史学界・考古学界のみならず、日本及び東洋の文化史に関わる領域に広く寄与する画期的成果。

カラー口絵  
はじめに……加島勝

### ◎研究編

#### 第1部

●中国・シルクロードにおける舍利容器の形式変遷について……加島勝 ●中国における棺形舍利容器とそのモデル……岡林孝作  
●北魏～隋唐時代の舍利埋納方式——地宮・天宮の変遷と舍利容器の組合せを中心に……冉万里

#### 第2部

●隋代における舍利埋納制度について……冉万里 ●仁寿舍利塔の思想と舍利容器……長岡龍作 ●神徳寺石函の図様表現と特色……泉武夫  
●隋時代の舍利容器……加島勝 ●臨瀛慶山寺舍利地宮壁画試論……楊效俊 ●法王寺2号塔地宮の出土品について……松本伸之 ●扶風法門寺塔の4つの真身舍利と舍利容器……大島幸代

#### 第3部

●法身としての舍利と容れ物——仁寿舍利塔から大仏へ……長岡龍作  
●ベトナムクン省トアンタイ県スアンクアン出土の隋仁寿元年舍利石函と舍利塔銘——交州龍編県禪衆寺舍利石函と塔銘調査記……冉万里  
●万安禅院石窟西奥壁の仏涅槃図・金棺出現図浮彫等についての概報……泉武夫 ●飛鳥時代の舍利信仰における一側面……岡林孝作

### ◎資料編

●仁寿元年の第一次仁寿舍利塔に関する資料集成……大島幸代

#### ◆資料集成

岐州鳳泉寺／雍州仙遊寺／嵩州嵩岳寺／秦州岱岳寺／華州思賢寺／衡州衡岳寺／定州恒岳寺／鄭州法講寺／牟州巨神山寺  
吳州会稽山寺／同州大興國寺蒲州栖巖寺蘇州虎丘山寺／涇州大興國寺／并州無量壽寺／相州大慈寺／襄州大興國寺／隋州智門寺／益州法聚寺／秦州靜念寺  
揚州西寺／鄭州定覺寺／青州勝福寺／亳州開寂寺／汝州興世寺／瓜州崇教寺／番州靈鷲山寺／桂州綠化寺／交州禪衆寺／蔣州栖霞寺  
●崇福寺塔心礎納置品の材質調査について……加島勝  
●拓本・碑銘

●拓本「神徳寺石函線刻」／山東青州勝福寺「碑銘」重修広福寺記／瑞応寺再葬仏舍利碑／結九品往生社碑  
●海外現地調査日誌 2001～2019……岡林孝作・加島勝

あとがき……加島勝

## 加島勝

（編）

（かしま・まさる）一九五六年生まれ。大正大学名誉教授・特選教授、東京国立博物館名誉館員。博士（文学）。専門は仏教工芸史。著書に『柄香炉と水瓶』（日本の美術）五四〇号、ぎょうせい、二〇一一年、『日中古代仏教工芸史研究』（雄山閣、二〇一六年）、『平泉の文化史3 中尊寺の仏教美術彫刻・絵画・工芸』（共著、吉川弘文館、二〇二一年）などがある。

定価 16,500円・本体15,000円  
B5判上製カバー装・460頁  
2024年3月刊行  
ISBN978-4-585-32041-8 C3020

<p>書名</p> <h2>器と信仰</h2> <p>加島勝（編）</p> <p>東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ</p>	<p>冊数</p> <p>定価 16,500円・本体15,000円 B5判上製カバー装・460頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-32041-8 C3020</p> <p>冊</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	

〈編者〉  
外村中  
稲本泰生

# 「見える」ものや 「見えない」ものを あらわす

## 東アジアの 思想・ 文物・ 藝術

### 本書の構成

- 第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの  
第二部 尊像の誕生  
第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象  
第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味  
第五部 音を「見せる」／姿を「留める」  
第六部 仏菩薩の顕現する場  
第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解  
第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの  
第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

「見える／見えない」を論じること、それらを描き出すこと——  
宗教や思想、藝術などの人間の営みは、  
このことが大変重要かつ普遍的なテーマであることを示している。  
東アジアの文物や藝術を解釈する上での共通の基盤の形成をめざすために、  
「見えるもの／見えないもの」にまつわる理論や事象について、  
従来分野の枠組をこえて国際的にかつ学際的に探求。  
宗教・思想をはじめ、考古遺物から彫刻絵画、  
建築庭園、芸能音楽などにまで及ぶ様々な論点を、  
最先端の研究者二十四名の視角により提示する画期的論集。

### 執筆者一覧

古勝隆一 向井佑介  
森下章司 内記理  
魏藝 折山桂子  
田中健一 中西俊英  
船山徹 高橋早紀子  
大平理紗 黄盼  
倉本尚徳 瀧朝子  
増記隆介 塚本明日香  
横手裕 福谷彬  
西谷功 重田みち  
清水健 吳孟晋

定価 15,400円・本体14,000円  
B5判上製カバー装・744頁(+口絵2頁)  
2024年3月刊行  
ISBN978-4-585-37012-3 C3071

書名	冊数
「見える」ものや「見えない」ものをあらわす 東アジアの思想・文物・藝術 外村中・稲本泰生(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

序にかえて……外村中

## 第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの

后稷は天に配せられたのか——『詩』大雅「生民」から『孝経』へ……古勝隆一  
漢魏晋墓の神坐と墓主画像——墓のなかの「見えるもの」と「見えないもの」……向井佑介

## 第二部 尊像の誕生

西王母像の系譜と像の崇拜……森下章司  
仏像の出現について……内記理

## 第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象

南北朝期中国仏教における土地思想の再検討——四果と土地の関係を手がかりに……魏藝  
莫高窟隋代の弥勒経变相図付近に描かれた二菩薩像……折山桂子  
日本仏教造像史と久遠の釈迦……田中健一

## 第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味

『大方広仏華嚴経』における「ヴァイローチャナ」とその教理的解釈……中西俊英  
盧舎那仏の可視性と立像……船山徹  
「法界仏像」における諸形象の表象意識——キジル石窟第十七窟両像と敦煌莫高窟第四二八窟像を中心に……高橋早紀子

## 第五部 音を「見せる」／姿を「留める」

雲岡石窟にあらわされた楽器について……大平理紗  
供養者画像からみる雲岡石窟大型窟の造営……黄盼

## 第六部 仏菩薩の顕現する場

晩年の道宣による天竺中土説の克服——見えないものによる三宝の住持と見えるものとの感応……倉本尚徳  
鏡像／線刻鏡の考察——画像を見いだす……瀧朝子  
宋代仏画における清浄華院「阿弥陀三尊像」の史的位位置……増記隆介

## 第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解

太極殿および大極殿をめぐる文学作品四篇訳注……古勝隆一  
見えない天意を見せるもの——正史「五行志」の役割……塚本明日香  
医家と道家と体内観……横手裕  
道学における周惇頤顯彰と『太極図説』への注目……福谷彬

## 第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの

道家系と儒家系と伊勢神道の「一なる」もの——「一なる」ものは「道」か「気」か……外村中  
北宋大中祥符年間における舍利莊嚴の位相——長干寺阿育王塔の埋納を中心に……稲本泰生  
涅槃会の変遷と涅槃図——東アジア仏教社会における「忌日」を視点に……西谷功

## 第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

幽霊能におけるまぼろし——〈幻〉と見える——見えない——の歴史と変遷……重田みち  
神宝より見える、見えない日本の神々の姿……清水健  
明清絵画にみる文人器玩のあり方……呉孟晋

あとがき……稲本泰生  
執筆者紹介



# 泰山諸神の信仰の展開

## 東岳大帝から碧霞元君へ

古来、道教の聖地として崇められ、  
中国の文化・伝統に  
多大な影響を与えてきた泰山と、その信仰――。

東岳大帝・碧霞元君などの神々の起源・由来・伝承を整理し、それらの民俗信仰の様相と変遷を考察。また先行調査と実地調査から、泰山諸神の信仰対象の移り変わりや民衆の認識を検討し、明代以降に隆盛する碧霞元君信仰について泰山・北京・大石橋市における廟会の事例を踏まえ、往時と現在の信仰の比較、廟会復興の過程を紹介。参考資料として、現代における廟会の図版を多数掲載。

泰山諸神の信仰状況を歴史的に検討し、広い視点から泰山信仰ひいては中国の民間信仰の一端を明らかにする画期的成果！

### 第一章

#### 泰山信仰の変遷

――東岳大帝から碧霞元君へ――

- 一、泰山諸神
- (一)泰山と東岳大帝
- (二)泰山と蒿里山
- (三)泰山と岱廟
- 二、炳靈公信仰
- (一)泰山三郎と炳靈公
- (二)通俗文学にみられる炳靈公
- (三)『封神演義』にみられる炳靈公
- 三、碧霞元君信仰
- (一)碧霞元君の起源と伝承
- (二)『醒世姻縁伝』にみられる碧霞元君

### 第二章

#### 北京の碧霞元君信仰

――北京と碧霞元君――

- (一)北京の碧霞元君廟会調査
- (二)妙峰山と願頭剛の調査
- (三)香道
- (四)文会と武会
- (五)鬻山
- (六)天台山
- (七)五頂
- (八)現在の妙峰山娘娘廟会
- 二、北京の廟会の現状
- (一)廟会の復興と発展
- (二)廟会の形式
- (三)廟会の現状

### 第三章

#### 満州の碧霞元君信仰

――満州と碧霞元君――

- (一)中国東北地域の碧霞元君信仰
- (二)迷鎮山娘娘廟会
- (三)迷鎮山と日本人調査
- (四)『封神演義』における碧霞元君
- (五)迷鎮山娘娘廟会の現状
- (六)鳳凰山と北山の娘娘廟会

#### 結語

- 参考資料
- 1 妙峰山
  - 2 Y鬻山
  - 3 五頂
  - 4 岱廟
  - 5 泰山
  - 6 北京春節廟会
  - 7 迷鎮山
- 後記

定価 8,800円・本体8,000円  
A5判上製カバー装・304頁  
2024年1月刊行  
ISBN978-4-585-31018-1 C3014

二ノ宮聡 著

(このみや・さとし)一九八二年生まれ。北陸大学国際コミュニケーション学部講師。専門は中国の民間信仰。主な業績に、翻訳『全訳 封神演義』共訳 勉誠社、二〇一七～一八全四冊、論文に『宝巻からみる明代後期から清代初期の碧霞元君信仰』(東方宗教)二三八号、二〇二二年、「北京の碧霞元君廟会―五頂と妙峰山とY鬻山(関西大学中国文学会、二〇二二年)」、「北京の廟会の復興と現状―二〇一・二〇二二年春節廟会を中心に―(関西大学中国文学会、二〇一四年)などがある。

書名	冊数
泰山諸神の信仰の展開 東岳大帝から碧霞元君へ 二ノ宮聡 著	冊
定価 8,800円・本体8,000円 A5判上製カバー装・304頁 2024年1月刊行 ISBN978-4-585-31018-1 C3014	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

No.31

小特集 宮澤賢治・日本文学と日本語教育が出逢うとき  
平安楽人、渡来の楽と出会う

定価 3,850円(本体価格3,500円)

A5判・並製・336頁

ISBN978-4-585-32462-1 C1320

2024年3月刊行

水門の会「編」

## 歴史文化研究の交流拠点、開港。

歴史学・文学・言語学・民俗学など諸学の粋を集め、  
ジャンルを越えた新たな学問世界への扉を開く。

## 水門

言葉と歴史

もくじ

■小特集 宮澤賢治・日本文学と日本語教育が出逢うとき  
扉巻頭言●藏中しのぶ

声：ことば・光をわけあう喜び●山崎佳代子

宮澤賢治の詩「無声慟哭」をめぐって●鈴木貞美

「オツベルと象」—— 錯綜するイメージ—— ●浦和男

「オツベルと象」の本文

—— カンボジアの日本語教材・

クメール語翻訳テキスト作成のために—— ●オルン・チャンボン

■小特集 平安楽人、渡来の楽と出会う

扉巻頭言●上原作和

日本古典文学における秋の調べ—— 「秋風楽」「秋風詞」「万秋楽」—— ●正道寺康子

本邦における「陵王」の系譜—— 平安朝物語文学を中心に—— ●笹生美貴子

入る日を返す撥こそありけれ—— 徳川本『源氏物語絵巻』「橋姫」巻瞥見—— ●上原作和

『教訓抄』に記された他家相伝の様相

—— 多氏の『胡飲酒』採桑老をめぐって—— ●森野正弘

■自由テーマ

『紫式部日記』における船乗描写

—— 「遠くなりゆくまに」という表現に注目して—— ●佐藤有貴

『法性寺殿御集』の句題詩—— 「題目」の詠作状況と詩集の構成—— ●布村浩一

『六度集経』所収話と六朝期の習俗・思潮

—— 初期漢訳仏典と孝子譚を中心に—— ●佐々木雷太

「富貴」の語—— 類似「福貴」と対比して—— ●萩原義雄

『茶譜』所引「分類草人木」の本文●頼妍菲

大江健三郎「懐かしい年への手紙」考察—— 「頻出を契機にして——」●杉山若菜

宮武外骨と大阪文人たち●浦和男

■『南総里見八犬伝』研究会

龍女と伏姫—— 『南総里見八犬伝』肇輯と『法華経』提婆達多品—— ●沼田大輝

非道の菩薩・犬村角太郎と『維摩経』『法華経』

—— 附、返璧の草庵と『方丈記』「外山の菴」—— ●藏中しのぶ

■『箋注倭名類聚抄』研究会 『箋注倭名類聚抄』注釈・巻第一・天地区第一・景宿類一

「星」●荻田みどり

■連載

『古事記』の言ひ分(二)—— 天孫の伊勢降臨—— ●鈴鹿千代乃

■書評

書評 山崎佳代子著

『そこからは青い闇がささやきべオグラード、戦争と言葉』(ちくま文庫)●杉山若菜

■彙報●相田満・藏中しのぶ

書名	部数
水門 言葉と歴史 No.31	定価3,850円(本体価格3,500円)
水門の会「編」	A5判並製カバー装・336頁
	2024年3月刊行
	ISBN978-4-585-32462-1 C1320
ご送付先ご住所(通信欄)	部



# 紫式部伝

## 平安王朝百年を見つめた生涯

上原作和 [著]

日本文学史・平安時代史最大の謎に挑む

紫式部はなぜ『源氏物語』を書いたのか。

撰関期全盛の後宮を生き抜き、物語を通して、

人生と社会の意味を問いかけたのが『源氏物語』である。

その人と生涯を、清少納言や藤原道長、二人の夫など、

紫式部をめぐる人々との関係を丹念にたどりながら明らかにする。

紫式部の幼名・本名、恋愛と結婚、宮廷生活、職階、没年等

について、先行研究を網羅的に検証しながら

一六の新見解を提示した本格評伝。

和歌・漢文日記等に読みやすい現代語訳、

専門用語に注記を付した。

### 16の新見解

- ・紫式部の幼名は「もも」、本名は「藤原香子」である
- ・紫式部初婚の相手は紀時文である
- ・中宮女房としての紫式部の職階・序列・職掌を明らかにした
- ・紫式部没年時下限は治安三年（一〇二二）三月三日である……など。

### ◎著者プロフィール

上原作和（うえはら さくかず）

一九六二年長野県佐久市生まれ。大東文化大学大学院博士課程単位取得退学。博士（文学、名古屋大学）。現在、桃源文庫理事。明治大学法文学部兼任講師。

主な研究テーマは文献史学、日本琴學史、物語文学。

主著に『光源氏物語の思想的変貌——琴のゆくへ』（有精堂出版、一九九四年）、『光源氏物語学』右書左琴の思想（翰林書房、二〇〇六年）、『光源氏物語傳來史』（武蔵野書院、二〇一一年、共編著）に『人物で読む源氏物語』全二〇巻（勉誠出版、二〇〇五―二〇〇六年）、『完

訳太平記』全四巻（勉誠出版、二〇〇七年）、テーマで読む源氏物語論（一―三巻）（勉誠出版、二〇〇八年）、『日本琴學史』（勉誠出版、二〇一六年）、『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版、二〇一七年）、『古典文学の常識を疑うⅡ』（勉誠出版、二〇一九年）などがある。

### ◎目次

はじめに

序章	紫式部前史―時代背景
第一章	紫式部の「戸籍」
第二章	紫式部の家系
第三章	父・藤原為時の生涯
第四章	生い立ちⅠ―幼名・通称「もも」説の提唱
第五章	生い立ちⅡ―物語愛好と学藝史
第六章	青春時代 女友達をめぐる交友 ―めぐり逢ひて 見しやそれとも
第七章	紀時文との結婚まで
第八章	紀時文との結婚
第九章	越前下向まで
第十章	越前の藤原香子
第十一章	帰洛から再婚まで
第十二章	藤原宣孝との結婚生活
第十三章	宣孝の死と寂寥の日々
第十四章	「コラム」光源氏物語前史
第十五章	物語を書く女Ⅰ―倫子家女房兼作家説 寛弘三年十二月二十九日 ―命婦としての初出仕から掌侍への昇任まで
第十六章	後宮女房・藤式部Ⅰ―日記の存在について
第十七章	後宮女房・藤式部Ⅱ―上臈中宮女房として 物語を書く女Ⅱ―作家紫式部の誕生
第十八章	「コラム」紫式部の地理的視角 宇治・檜の尾山編
第十九章	「コラム」紫式部の地理的視角 愛宕山編 藤原実資から見た「女房」紫式部
第二十章	「コラム」紫式部集「寛書」南波浩と 定家本「紫式部集」、三谷邦明の接点
初出一覧	「コラム」現存「紫式部日記」はどのように成立したか
あとがき	紫式部の死 終章
附録	「コラム」角田文衛、鍋島直康両先生追想
	「コラム」三島由紀夫の「源氏物語」そして「豊饒の海」
	「コラム」源氏の物語を伝えた人々

定価五、九四〇円（税込）  
本体五、四〇〇円（＋税）  
二〇二三年十月刊行  
A5判並製カバー装・四二六頁  
ISBN978-4-585-39035-0 C1095

書名	部数
紫式部伝 平安王朝百年を見つめた生涯 上原作和 [著]	部
定価 5,940円(本体 5,400円) A5判・並製カバー装・416頁 ISBN978-4-585-39035-0 C1095 2023年10月刊行	
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

# 日本人は漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

湯沢質幸 [著]

日本において古代から現在に至るまで  
延々と読み継がれてきた漢文。  
その読み方には  
中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、  
そして、平安時代に生まれ、  
漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の  
二種類が存在する。  
しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、  
日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。  
なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか――  
漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、  
〈直読〉から〈訓読〉への変化を追い、  
日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

## 目次

本書の目的

凡例

### 第一章 直読と訓読

――現代と平安時代――

### 第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

――『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』――

### 第三章 〈直読から訓読へ〉

――直読の衰退――

### 第四章 平安時代の訓読

――『白氏文集』――

### 第五章 『宇津保物語』併存の再検討

### 第六章 平安時代儒学界と直読

### 第七章 儒学界と仏教界

### 第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語

参考文献

後記

## 執筆者紹介

(ゆざわ・ただゆき)一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。東京教育大学文学研究科修士課程

修了。博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山形大学、筑波

大学、京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七年)、『日本漢字音

史論考』(勉誠社、一九九六年)、『古代日本人と外国語』(同

増補改訂) (勉誠出版、二〇一一年)、『音声・音韻探求法』

(松崎寛と共著、朝倉書店、二〇〇四年)、『近世儒学韻学

と唐音』(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本でどう生き

てきたか』(開拓社、二〇一七年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁  
ISBN978-4-585-38006-1 C1081  
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
定価 3,520 円(本体 3,200 円) 四六判・並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-38006-1 C1081 2024年5月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

# 楷書の秘密

「字様」が発見されるまで

かいしよのひみつ  
じようがはつけんされるまで

五万字以上もある楷書の字形が、  
乱れることなく現代まで保たれ続けているのはなぜか――

類似する楷書を広く弁別するために編纂された典籍「字様」。

字書とは異なる性格・構成をもつそれは、

科挙制度とも深く結びつきながら楷書字形のあるべき姿を決めていった。

筆者の発見した典籍『正名要録』『群書新定字様』の精査から浮かんでくる「字様」という概念を紹介する。

また『説文解字』の検討により、楷書の歴史を整理し、字体の規定の有り様を明らかにするとともに、

「楷書」という東アジア漢字文化圏を支える文字体系の解明を目指す。

## 西原一幸 [著]

(にしはら かずゆき)一九四七年生まれ。

金城学院大学名誉教授。

専門は中国・日本の古代辞書。

主な著書に『唐代字様二種の研究と索引』(大友信一と共著、桜楓社、一九八四年)、『字様の研究――唐代楷書字体規範

の成立と展開』(勉誠出版、二〇一五年)などがある。

### もくじ

- 一九七〇年代までの研究状況
- 新資料の出現
- 『干禄字書』と『五経文字』は字様である
- 隋・唐代の弁別体系と字様
- 新資料の出現
- 『干禄字書』の威力
- 石経が採用される理由
- 開成石経と『五経文字』
- 『正名要録』と『顔氏家訓』
- 俗体とは何か――顔元孫と俗体の成立――
- 開成石経と唐玄度撰『新加九経字様』――石経字形はどのようにして決められたか――
- 文宗の最後
- 唐代楷書字体規範からみた『龍龕手鏡』
- 異体字同定上の問題点
- 楷書の秘密

あとがき

定価 四、一八〇円(本体三八〇〇円)

四六判・並製・二〇八頁

二〇二四年二月刊行

ISBN978-4-585-38005-4 C3080

書名	部数
<b>楷書の秘密</b> 「字様」が発見されるまで 西原一幸 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 4,180円(本体 3,800円)

四六判・並製カバー装・208頁  
ISBN978-4-585-38005-4 C3080  
2024年2月刊行

# 日本人の読書

## 古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか——  
古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、  
伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される  
特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた  
漢籍(漢語で書かれた書物)は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。  
中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問——漢学——は、国家の制度のなかにも位置付けられ、  
それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、

独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、  
古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』◎『文選集注』巻七断簡◎『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡◎『論語』清原業賢書写・加點本

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加點本

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡◎『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生(さとう みちお)  
一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期  
日本漢文学の研究』(笠間書院、二〇〇三年)、『三河風来寺旧蔵曆応二年書写和漢朗詠集影印  
と研究』(勉誠出版、二〇一四年)、『句題詩論考——王朝漢詩とは何ぞや』(勉誠出版、二〇一六年)、  
『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討』(『変革期の社会と九条兼実——『玉葉』をひらく』  
勉誠出版、二〇一八年)などがある。

### 目次

カラー口絵

◎本 篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本——唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世漢文訓詁史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活——『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事——藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

——天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

——慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

——大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕——呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

——『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附 篇

第十八章 『朝野群載』卷十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩——句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の  
図版収録点数  
総50超!

定価 13,200 円(本体 12,000 円)  
A5判・上製カバー装・  
504頁+カラー口絵16頁  
ISBN978-4-585-39033-6 C3091  
2023年9月刊行

書 名	部 数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 13,200 円(本体 12,000 円)  
A5判・上製カバー装  
504頁+カラー口絵16頁  
ISBN978-4-585-39033-6 C3091  
2023年9月刊行



# 古典籍の 文献学

## 鶴見大学図書館の蒐書を巡る

『伊勢物語』、『源氏物語』などの物語、歌集・歌学書、古筆切、仏書、漢籍、洋学資料…。鶴見大学図書館では、文献資料に基づく実証的研究を伝統とし、その時々々の教職員が書物に対する深い関心と集書への熱意によって、徐々に貴重な古典籍が蒐集されてきた。そのコレクションは全国でも屈指の収蔵点数を誇っており、まさに「宝庫」と呼ぶに相応しい。鶴見大学図書館が七十年の長きにわたり、博搜と収蔵に取り組み続け、守り伝えてきた宮為とその魅力をあますところなく紹介する。

鶴見大学図書館の貴重書——これまでとこれから ●伊倉史人

### 第一部……物語と歌書

伊勢物語 ●久保木秀夫

源氏物語——河内本または別本を含む写本 ●田口暢之

『平家物語』長門切——鶴見大学図書館断簡を中心に 付長門切一覽 ●平藤幸

改竄された仮名遣い——契沖筆、古今和歌集」とその模刻 ●加藤弓枝

新古今和歌集——鎌倉期写の残欠本 ●田口暢之

十三代集とその周辺——「写字白」旧蔵本と尊円筆、風雅和歌集 ●石澤一志

御室撰歌合と千五百番歌合 ●田口暢之

鶴見大学図書館蔵伝後京極良経筆和漢朗詠集について ●山本まり子

古筆切・古筆手鑑 ●久保木秀夫

無訓の金沢文庫切 ●新沢典子

院政期歌学書の善本——『俊頼髓脳』を中心に ●伊倉史人

新収の古今注——伝轉法輪公教筆、古今和歌集注の紹介 ●河田翔子

### 第二部……仏書・漢籍・洋学・アーカイブ

鶴見大学図書館所蔵品をとおしてみる本邦における仏典の書写・請求・印刷 ●宮崎展昌

聖教を披き、「宝蔵」を思い描く ●小島裕子

禅籍ではじまる日本出版文化 ●万波寿子

仏教文化研究所——總持寺、瑠山禪師の探求と大遠忌関連事業 ●尾崎正善

鶴見大学所蔵の中国漢籍——三槐堂王乾字刊、烏臺正詒凌雲詩経 ●金文京

開国の足音——オールコック「初學者用日本文法綱要」 ●遠藤佳那子

でんしかししょう！ ●大矢一志



定価 2,200円・本体2,000円  
B5判並製・オールカラー・120頁  
2024年3月刊行  
ISBN978-4-585-30725-9 C1000



<p>書名 [書物学 25] <b>古典籍の文献学</b> 鶴見大学図書館の蒐書を巡る 編集部(編)</p>	<p>冊数    冊</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

定価 2,200円・本体2,000円  
B5判並製・オールカラー・120頁  
2024年3月刊行  
ISBN978-4-585-30725-9 C1000

電子書籍（フルカラー版）同時刊行！！

本書ご購入の方には、  
電子書籍を半額で販売いたします。  
ご希望の方は【info@bensei.jp】まで  
お問い合わせください。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館

〔編〕

# 本 かたちと文化

## 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方

写本、  
版本、  
明治期に  
作られた書籍

日本の古い本には色々な形があり、それを構成する部品、作られた時代も様式も様々である。これらの「本」には何が書かれているのか。そもそも「本」のどこをどのように見ればいいのか。くずし字はどう読めばいい？ 捺されているハンコは何を意味しているのか？ 表紙の模様にはどのような意味が隠されているのか？ 一流の研究者たちが丁寧にわかりやすく解説する。多数の図版とともに楽しむ、充実の古典籍・近代文献の入門書！

### Contents

- 刊行に寄せて……渡部泰明  
はじめに——「本」を学び楽しむために……海野圭介
- 講義 1 ◎ はじめての古典籍……神作研一  
「コラム」亀甲パレン「」のこと……神作研一
- 講義 2 ◎ くずし字——昔の人の文字をどう読むか……桑汐里  
「コラム」書物を切る——古筆切という資料……海野圭介
- 講義 3 ◎ 写本——奥書・識語から本の来歴と素性を知る……海野圭介  
「コラム」国書データベースで複数の画像を比較するには……木越俊介
- 講義 4 ◎ 版本——刊記・奥付から印刷文化を探る……木越俊介  
「コラム」『彩画職人部類』再刻』を検証する……木越俊介
- 講義 5 ◎ 装訂と料紙——本の「かたち」から何を読みとるか……落合博志  
「コラム」写本を模倣する古活字版……落合博志  
「コラム」表紙は装訂です——付新出化紙綴じ二種……神作研一
- 講義 6 ◎ 表紙文様——本を彩る意匠の世界……齋藤真麻理  
「コラム」表紙ウラの楽しみ……齋藤真麻理  
「コラム」文様と奈良絵本……齋藤真麻理
- 講義 7 ◎ 印——本に捺されたハンコは何を伝えているのか……松永瑠成  
「コラム」史料としての貸本印……松永瑠成  
「コラム」印主の調べ方……松永瑠成
- 講義 8 ◎ 江戸の出版文化——古活字版を中心に……入口敦志  
「コラム」日本出版史の謎……入口敦志
- 講義 9 ◎ 近代本の世界——近代資料の作り方・（残し方・読み方）……多田蔵人  
「コラム」ナポレオンの妻の物語……多田蔵人  
「コラム」普通の本の大切さ……多田蔵人  
「コラム」蔵書形成の意義——国文研のコレクション紹介を兼ねて……木越俊介・齋藤真麻理
- 参考文献リスト——工具書を中心に  
国文研を利用しよう



書名	冊数
本 かたちと文化 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 〔編〕	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 3,080 円・本体2,800円  
A5判並製カバー装・288頁  
2024年2月刊行  
ISBN978-4-585-30011-3 C1000

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX ●03-5215-9025

神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編)

# 古文書修復講座

## 歴史資料の継承のために

### 歴史資料を残し、伝えていくために――

日本においては、歴史を伝える資料、特に古文書・古記録などの紙を利用した史資料が多く残されている。これらは博物館や資料館、図書館などで管理されているもののみではなく、家屋や倉庫などの奥底、さらには襖の下張りや表紙の裏などに残され、破損・水損・虫害など、さまざまなリスクに囲まれている。傷んでしまった史資料は、どのように対処し、管理していくべきなのか。長年にわたり、古文書の調査のみならず保存・管理の方法論を検討し、史資料の取り扱いかたのレクチャーを行ってきた神奈川県立日本常民文化研究所のノウハウ・知見を、豊富なカラー写真とともに余すところなく紹介する必備の一冊。

### 博物館・資料館・図書館等、古文書を取り扱う方々に必携の書

#### 【監修者プロフィール】

#### 神奈川県立日本常民文化研究所

日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川県立日本常民文化研究所の学際的研究機関。

1921年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身として、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川県立に招致され、2021年で創立100周年をむかえた。

2023年には、神奈川県立日本常民文化研究所は博物館相当施設に指定され、常民文化ミュージアムがリニューアルオープンしている (<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/>)。

#### 【編者プロフィール】

#### 関口博巨(せきぐち・ひろお)

1960年生まれ。神奈川県立日本常民文化研究所国際日本学部准教授。専門は日本近世史。著書に『近世村落の領域と身分』(吉川弘文館、2021年)、『古文書を学ぶ』(御茶の水書房、2021年)、論文に『水軍の記憶』を編む――二神種章の歴史叙述』(『歴史と民俗』35、平凡社、2019年)などがある。

#### 【もくじ】

はじめに…関口博巨

1.古文書修復実習開催の背景

古文書返却の旅

常民研による古文書修復のはじまり

恒例化した古文書修復実習

2.本書の構成

古文書修復(1):記録・解体(実習1)…白水智

古文書修復(2):修理―古文書の裏打ちと繕い(実習2)…山口悟史

古文書修復(3):復原(実習3)…関口博巨

下張り文書の剥離と洗浄(実習4)…平田茉莉子・中村 慧

整理(実習5)…白水 智

column

古文書を食べる虫…山口悟史

近現代史料の整理をはじめる前の手当て…平田茉莉子

水損古文書を救う―乾燥・洗浄処置と開披方法…山口悟史

古文書修理の接着剤…山口悟史

モノとしての古文書と民具―複合資料論の試み…関口博巨

民具と古文書の間…石野律子

偽作された古文書…日座久美子

表具師・経師と修復…平田茉莉子

渋沢敬三が求めた「常民古文書」…窪田涼子

時代をまたぐ史料をどのように整理するか…白水 智

神奈川県立日本常民文化研究所について

あとがき…関口博巨

執筆者紹介

カラー図版  
約350点  
掲載!

定価 4,180 円(本体価格 3,800 円)

B5判並製カバー装・フルカラー 192頁  
ISBN978-4-585-32035-7 C1021  
2024年3月刊行

書名	部数
古文書修復講座 歴史資料の継承のために 神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編者)	部
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	



# 国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの

さんじゅうじゅう  
さうし



最新の仏教学を学ぶために唐に渡った弘法大師空海が、当地の仏教經典・儀軌類を書写し、日本に隨身秘蔵してきた冊子本、国宝「三十帖冊子」。第六世守覚法親王の時代より京都・仁和寺にて尊ばれ、伝持されてきた同書は、空海の入唐中の学問のありかたを伝える密教将来の至宝として、また、空海や橘逸勢ほか、多くの唐の写経生がその書写に関わり、かつ冊子のかたちとして最も古い装訂とされる。粘葉装（ねんえいそう）の日本最古の例として、文化財としても特筆すべき意義を有している。国宝「三十帖冊子」は、どのように守られ、伝えられてきたのか。六か年の歳月をかけて行われた修理の全容と、それによって見えてきた新知見を多くのカラー図版とともに紹介。さらには、「三十帖冊子」の伝来と流転、奈良朝經典訓読や漢籍訓読の諸問題、空海の学問と書、高解像度デジタル顕微鏡による料紙分析と写本学とのコラボレーション、文化財修理のこれまでとこれから等、多角的な観点から「三十帖冊子」を把握する決定版。

## 掲載図版点数三〇〇点超！

刊行にあたって 総本山仁和寺門跡真言宗御室派管長 瀬川大秀  
序言——本書の概要 宇都宮啓吾

### 第一部 修理・書誌篇

国宝「三十帖冊子」修理報告——修理の概要と調査報告・株式会社松鶴堂  
「三十帖冊子」の修理を振り返って・株式会社松鶴堂（書跡担当課 森川洋子）  
「三十帖冊子」の料紙に残された痕跡の伝えるもの  
——保存修理の視点から 鈴木裕  
装訂や料紙から見た国宝「三十帖冊子」 赤尾栄慶  
コラム 空海の書——唐からの贈り物 銅島稲子  
「三十帖冊子」を飾る染織品 山川曉  
料紙を観る——写本学と光学的調査からのアプローチ  
石塚晴通・赤尾栄慶・江南和幸・岡田至弘  
コラム 文化財情報のプラットフォーム  
金剛寺蔵「梵漢普賢行願讚」をめぐる——宇都宮啓吾

### 第二部 典籍篇

「三十帖冊子」の借覧と返納をめぐる——武内孝善  
「三十帖冊子」の仁和寺移動と仁和寺伝持の歴史 朝川美幸  
空海将来経論の書写をめぐる——  
——「三十帖冊子」に関連して 苦米地誠一  
仁和寺蔵「三十帖冊子」の訓点から  
観た漢籍訓読の一問題 宇都宮啓吾  
典籍保存修理の歩み——昭和から令和へ 鈴木裕

定価 13,200円(税込)

本体 12,000円(+税)

2023年11月刊行

A5判上製カバー装・336頁(カラー160頁)

ISBN978-4-585-31012-9 C3015

総本山仁和寺 監修 宇都宮啓吾 編

(うつのみや・けい) 1966年生まれ。大阪大谷大学文学部教授。専門は日本語学、仏教典籍学。著書に『四天王寺聖教の世界』(四天王寺宝物館令和三年秋季特別展図録(監修・執筆、四天王寺勧学部、二〇二二年)などがある。

書名	冊数
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの 総本山仁和寺＝監修 宇都宮啓吾＝編	冊
定価 13,200円(税込) 本体12,000円(+税) A5判上製カバー装・336頁(カラー160頁) 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-31012-9 C3015	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)……〈編〉

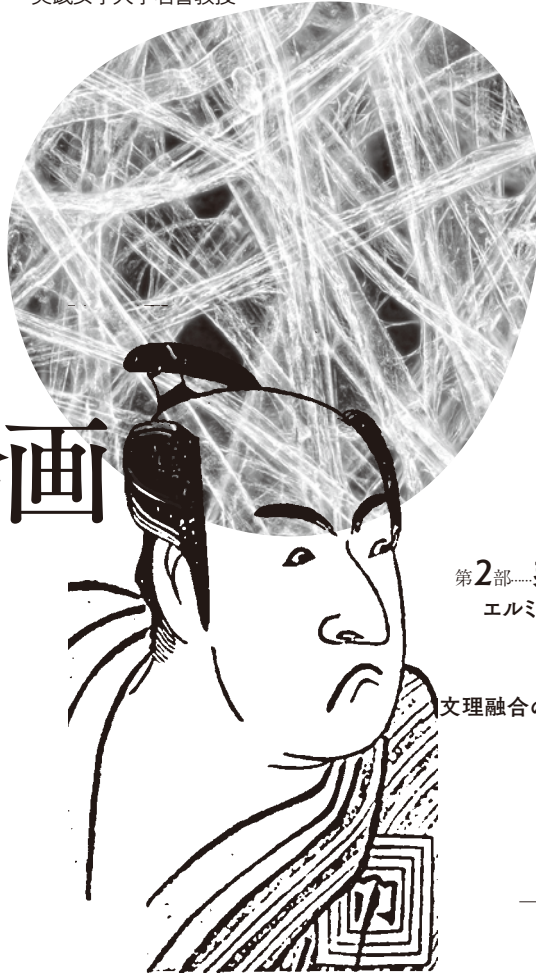
龍谷大学名誉教授

実践女子大学教授

実践女子大学名誉教授

目次

# 紙の レンズが ひらく 古典籍・絵画 の世界



定価4,950円・本体4,500円

A5判並製カバー装・280頁  
2023年11月刊行  
ISBN978-4-585-39036-7 C3090

## 「紙」は何を伝えているか——

古典籍や絵画、文書など、東アジアには紙を基底材とした文化財が数多く伝来している。そこで使用される紙は、原料や加工処理により、さまざまな表情を残している。これらの紙は、どのように作られ、選択され、流通したのか。文学的・書誌学的・文献学的研究と、高性能デジタル顕微鏡観察や蛍光X線分析による非破壊科学的分析研究とを一体とした「新コディコロジー」により、紙そのものが持つ情報と、その背景にある歴史・社会・経済・政治といった文化状況までもが明らかになりつつある。料紙研究の最先端を伝え、また、これからの課題をも提示する貴重な一冊。掲載図版200点超!

カラー口絵

序言 紙は文化のインフラ  
——新コディコロジーの可能性  
佐藤悟

第1部……「紙」を科学する視点  
古写本学(Codicology)と  
紙の科学的分析学(Papyrography)との邂逅  
江南和幸

手漉き和紙、とくにコウゾの製造から紙へ  
——デジタル顕微鏡でここまで分かる  
澤山茂

デジタルマイクロスコープを用いた  
和紙の表面粗さの計測とその精度  
大和あすか

第2部……非破壊分析が明かす美術・古典籍  
エルミタージュ美術館レンブラント銅版画コレクション用紙に  
用いられた和紙の顕微鏡分析  
江南和幸・岡田至弘

文理融合の研究手法でひも解く『大清聖祖仁皇帝實録』の歴史  
——大紅綾本と紫綾本の紙質分析から  
徐小潔

科学分析が明かす浮世絵を作り上げた紙の姿  
江南和幸・岡田至弘・佐藤悟

国文学・美術とハイテク分析機器  
——コメ澱粉粒の反射偏光顕微鏡観察および浮世絵の色分析を例に  
日比谷孟俊・澤山茂・大和あすか

第3部……非破壊分析による国文学研究  
光学的観点に基づく料紙解析から  
古筆切のツレを認定する際の課題と対策  
舟見一哉

為家本源氏物語幻の巻の研究  
——高精細デジタル顕微鏡・高解像度スキャナ・  
蛍光X線分析器による紙質調査を通して  
横井孝・澤山茂・日比谷孟俊

明融と打紙、そして明融本源氏物語のことなど  
上野英子

あとがき  
横井孝

執筆者紹介  
Abstracts/ 英文要旨

書名	冊数
紙のレンズがひらく 古典籍・絵画の世界 江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)〈編〉	定価4,950円・本体4,500円 A5判並製カバー装・280頁 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-39036-7 C3090
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

増補改訂版

# 図像学入門

## 疑問符で読む日本美術



本書は『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(2015年11月刊行)の増補改訂版です。

### もくじ?

- 第1章 釈迦の生涯——仏像の基本
  - 第2章 仏像の種類——4つのタイプ
  - 第3章 曼荼羅——密教世界の地図
  - 第4章 六道輪廻と浄土——人は死んだらどこへゆく?
  - 第5章 神々のすがた
  - 第6章 人のかたち——肖像と似会にせえ
  - 第7章 絵巻物——物語を絵にする
  - 第8章 山水画と花鳥画——神仏でも人でもないもの
  - 第9章 浮世絵
  - 第10章 西洋絵画と日本
- ついでのはなし

観音にはひげがある?  
なぜ絵巻は右から左へみるの?  
写生画が写真ではない?  
絵画や仏像などのさまざまな疑問・謎を  
図像解釈学(イコノロジー)から探り、  
日本美術の新しい楽しみ方を提案する。  
大日如来、幽霊の絵、麗子像など  
8つのトピックを追加し、増補改訂版として刊行。

## 山本陽子 著



(やまもと・ようこ) 1955年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科(美術史)博士課程後期単位取得。博士(文学)。明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』(中央公論美術出版、2006年)、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』(勉誠出版、2012年)、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(勉誠出版、2015年)、『はじめての日本美術史』(山川出版社、2018年)、『物語る仏教絵画——童子・死・聖地』(勉誠社、2023年)など。

定価 2,640円・本体2,400円  
四六判並製カバー装・272頁  
2024年4月刊行  
ISBN978-4-585-37014-7 C0071

書名	冊数
<b>増補改訂版 図像学入門</b> 疑問符で読む日本美術 山本陽子<著>	冊数 定価 2,640円・本体2,400円 四六判並製カバー装・272頁 2024年4月刊行 ISBN978-4-585-37014-7 C0071 冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。  
 東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

# 物語る仏教絵画

## 童子・死・聖地

◎ 目次

はじめに

序 神を見ることと描くこと——石清水八幡宮の事例を中心に

### 第一部 仏画と垂迹画における童子像

#### ——神の家の小公達

- 一 粉河寺の童男行者信仰——フリア美術館蔵伝聖徳太子修業像を中心に  
春日の赤童子信仰
- 二 三童形の日吉十禪師像
- 三 熊野曼荼羅の切目王子——神々のヒエラルキー
- 四 越前系の白山垂迹曼荼羅——遊行寺本と国上神社本
- 五 第一部まとめ——童子像は借用され、読み替えられ、まとめられる

### 第二部 死をめぐる図像

- 一 ボストン美術館本菩提樹像は何を表すものか
- 二 法華寺蔵阿弥陀三尊及童子図はどのように掛けられたか
- 三 金戒光明寺蔵地獄極楽図屏風はどのように使われたか
- 四 聖衆来迎寺本六道絵「天道」幅の主人公は誰か  
補論 天人から天女へ——なぜ五衰の天人が女性とされるようになったのか
- 五 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅はなぜ女性なのか
- 六 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅と  
九州国立博物館本九相図巻の噺相は何に基づいたか
- 七 長岳寺蔵六道十王図に天道は描かれていないのか  
斜め構図の兜率天曼荼羅図がなぜ描かれたのか  
——延命寺本と根津美術館本を中心に
- 八 第二部まとめ——鎌倉時代、死の文化は多様に展開する

### 第三部 中国の靈山信仰から日本へ

#### ——観音と靈地信仰

- 一 長沙馬王堆漢墓出土の帛画はなぜT字形状か
- 二 須彌山石とは何を表したのか——水源伝説としての崑崙山  
補論 日本における三山信仰——三山もしくは三峯という構成の根拠は何か
- 三 水月観音図の創作にどのような先行図様が引用されたか
- 四 フリア本地蔵十王図と伏羅陀山地蔵図様はどのように成立したか
- 五 雲乗の十一面観音図様とはどのような意味なのか
- 六 宮曼荼羅になぜ参詣人が出現したか——普陀山図の影響を考える  
補論 粉河寺蔵「南海名山普陀勝境圖」と中国における普陀山図の展開
- 七 第三部まとめ——現実の靈地に伝説の聖地を重ねる

おわりに

図版出典一覧／初出一覧／索引



山本陽子 [著]

なぜ特異な  
仏画が  
作られたのか

日本中世において数多く制作された仏教絵画のなかで、類例のない図様を持ち、制作当時とは異なる名称で呼ばれたり、別の信仰の文脈で語られてきたりした経緯をもつ、特異な仏画が存在する。

これらはどのような意図で制作され、何を意味しているのか。そして、なぜ多種多様な形態や伝説を持っているのか。とりわけ「童子・死・聖地」にまつわるこれらの仏画や垂迹画を丹念に読み解き、図像的特徴や成立背景、制作意図を明らかにする。

さらに、これらの仏教絵画が制作された時点における、伝承や説話からの影響関係、受容の様相を探る。

美術史学・説話文学・民俗学研究など隣接諸学に寄与する研究成果。

図版289点掲載！

### ◎ 著者プロフィール

山本陽子 (やまもと・ようこ)

明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。

著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』（中央公論美術出版、二〇〇六年）、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』（勉誠出版、二〇一二年）、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』（勉誠出版、二〇一五年）、『はじめの日本美術史』（山川出版社、二〇一八年）などがある。

部 数

## 物語る仏教絵画

童子・死・聖地

山本陽子 [著]

定価 11,000 円(本体 10,000 円)

A5判・上製カバー装・616頁  
ISBN978-4-585-37011-6 C3071  
2023年10月刊行

部

ご送付先ご住所・氏名（通信欄）

# 東アジアの「孝」の文化史

## 前近代の人びとを支えた 価値観を読み解く『アジア遊学288号』

雋雪艶・黒田彰 編

中国をはじめとする東アジアの文明の歴史において重要な役割を果たし、かつては東アジアの人々にとって最も重要な価値観、行動規範であった、「孝」という思想と文化。東アジア各国において伝承された「孝」は、歴史や文化的背景によって異なり、様々な形で表象されてきた。考古学の文物や文献および敦煌の文書などの重要な二次的資料にはどのような形で残されてきたのか。孝の文化は仏教とどのように融合して、変化したのか。また、日本の説話、和歌、謡曲、絵画などではどのように表現されてきたのか。社会史、思想史、文学史、美術史など多領域に散見される「孝」という文化が、長い歴史の中で果たしてきた役割を客観的に認識し、学際的な視点から考察する。

雋雪艶（せん・せつえん）

中国、清華大学人文学院外国語言文学系教授。専門は中古代比較文化研究。著書に『藤原定家「文藝百首」の比較文学的研究』（汲古書院、二〇〇二年）、『文化的重写：日本古典中の白居易形象』（清華大学出版社、二〇一〇年）、『日本古代文学と白居易』（共編、勉誠出版、二〇一〇年）などがある。

黒田彰（くろた・あきら）

佛敎大学名誉敎授。専門は国文学（中世）。主な著書に『中世説話の文学史的環境』正・続（和泉書院、一九八七・一九九五年）、『和漢朗詠集古注釈集成』全三巻（伊藤正義と共編、大学堂書店、一九八九・一九九七年）、『孝子伝の研究』（思文閣出版、二〇〇一年）、『孝子伝図の研究』（汲古書院、二〇〇七年）などがある。

よくい

序 ● 雋雪艶  
序文 ● 黒田彰

### 一、孝子伝と孝子伝図

中国の考古資料に見る孝子伝図の伝統 ● 趙超舜の物語攷——孝子伝から二十四孝へ ● 黒田彰  
伝賀知章草書『孝経』と  
唐宋時代『孝経』テキストの変遷 ● 顧永新（翻訳：陳佑真）  
曹操高陵画像石の基礎的研究 ● 孫彬  
原谷故事の成立 ● 劉新萍

### 二、仏教に浸透する孝文化

報恩と孝養 ● 三角洋一  
〈仏伝文学〉と孝養 ● 小峯和明  
孝養説話の生成  
——日本説話文芸における『冥報記』孝養説話 ● 李銘敬  
説草における孝養の言説 ● 高陽  
元政上人の孝養観と儒仏一致思想  
——『扶桑隱逸伝』における孝行言説を中心に ● 陸晚霞  
韓国にみる〈孝〉の文芸 —— 善友太子譚の受容と変移 ● 金英順  
平安時代における仏教と孝思想  
——菅原文時『為謙徳公報恩修善願文』を読む ● 吉原浩人

### 三、孝文化としての日本文学

漢語「人子」と和語「人（ひと）の子（こ）」  
——古代日本における〈孝〉に関わる漢語の受容をめぐる ● 三木雅博  
浦島子伝と『董永変文』の間  
——奈良時代の浦島子伝を中心に ● 項青  
『蒙求和歌』における「孝」の受容 ● 徐夢周  
謡曲における「孝」 ● ワトソン・マイケル  
『孝経和歌』に見る日本における孝文化受容の多様性 ● 雋雪艶  
和漢聯句に見える「孝」の題材 ● 楊昆鵬  
橋本関雪「木蘭」から見る「孝女」木蘭像の変容 ● 劉妍

定価 三、五二〇円（税込）

本体 三、二〇〇円（+税）

二〇二三年十月刊行

A5判並製カバー装・三三六頁

ISBN978-4-585-32534-5 C1310

書名	冊数
東アジアの「孝」の文化史 前近代の人びとを支えた価値観を読み解く 『アジア遊学288号』 雋雪艶・黒田彰 編	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 3,520円（本体 3,200円）

A5判・並製カバー装・336頁  
ISBN978-4-585-32534-5 C1310  
2023年10月刊行

株式会社勉誠社  
（勉誠出版）

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025